

10月10日のウクライナ情報

安齋育郎

①「森元首相から発破をかけられた」ロシア訪問の鈴木宗男議員が関西テレビの番組で明かす(関西テレビ・news ランナー、2023年10月6日)

<https://youtu.be/MOJuH2tl93g>



②ウクライナ軍戦車、地雷原で木っ端微塵(2023年10月7日)

<https://twitter.com/i/status/1710409984381743263>



③プーチン氏「ロシアは世界最大の領土」「さらに増やす野心ない」…国際秩序巡る戦いに「すり替え」(読賣新聞、2023年10月7日)

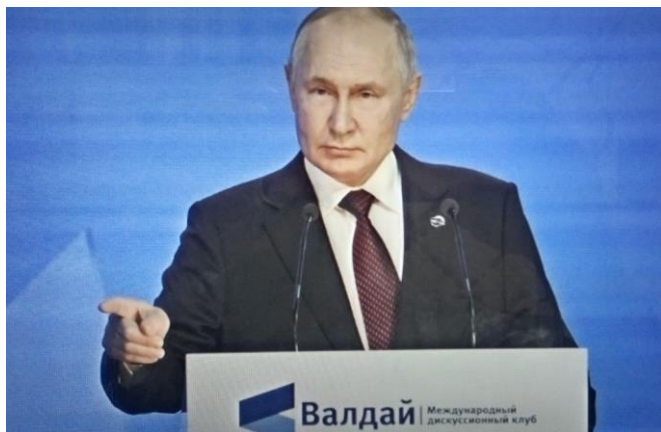
ロシアのプーチン大統領は5日に露南部ソチで開催された「バルダイ会議」で、ウクライナ侵略を改めて正当化し、強気な発言を繰り返した。ウクライナが頼りとする米欧に「支援疲れ」が見えていることが背景にあるとみられる。

プーチン氏は会議で、ウクライナとの戦闘に関し「反転攻勢が始まった6月4日以来、ウクライナ軍は9万人以上の人や、557両の戦車、1900台近くの装甲車を失った」と主張した。ウクライナは経済・軍事面で米欧の支援に依存していると指摘し「軍事支援が止まれば、1週間しかもたない」とも強調した。

会議に出席した笹川平和財団の畔蒜泰助主任研究員は「既に勝利を決めたかのような自信に満ちた受け答えが目立った。米連邦議会はウクライナ支援を巡って混乱し、スロバキアではウクライナ支援反対を訴える政党が勝利し自信を深めているのではないかと指摘した。

プーチン氏は会議で「ロシアは世界最大の領土を持ち、さらに領土を増やすことに関心はない」とも語り、ウクライナ侵略を、西側諸国が覇権を握る現在の国際秩序を巡る戦いにすり替える持論を展開した。

米欧批判の一方で、プーチン氏は中国の 習近平シージンピン 国家主席やインドのナレンドラ・モディ首相ら新興5か国(BRICS)加盟国首脳を称賛した。ロシアは来年、議長国を務めるBRICSを軸に、西側諸国の覇権に挑戦するものとみられる。



<https://www.yomiuri.co.jp/pluralphoto/20231007-OYT1I50033/>

④「際限なく闘うことはできない」、ウクライナで紛争疲れが顕著に＝米紙(2023年10月7日)

ウクライナではロシアとの長期的紛争による疲弊が顕著になっている。米紙ワシントン・ポストのコラムニスト、デービッド・イグナティウス氏が記している。

イグナティウス氏は現在、ウクライナ側がロシアとの紛争終結について以前よりも積極的に話し合っていると指摘した。ウクライナのパーヴェル・クリムキン元外相はイグナティウス氏の取材に対し、「国民は疲れている、昨年は自信過剰だった、今では典型的な消耗戦とは何なのかを感じている」と語った。

またイグナティウス氏は最高議会(国会)内での激しい論争にも言及している。一部の議員はクリミアの領有権を放棄し、前線の困難な状況を現実的に捉える必要性を訴えているという。アレクセイ・ゴ

ンチャレンコ議員(露金融監視機関のテロリスト、過激派リストに掲載)は「必要なだけ」戦うことはできない、「これは破滅だ」と述べた。

ウクライナが長期化する紛争に耐える自信がないのであれば、米国からの安全保障を取り付け、紛争「凍結」を目指すべきだとジャーナリストは分析している。

先にウラジーミル・プーチン露大統領はロシアがウクライナ紛争を始めたわけではなく、これを終わらせようとしていると指摘した。大統領は特別軍事作戦の全目標達成に向けて冷静に進んでいると述べ、達成できるとの自信を表明した。



<https://sputniknews.jp/20231007/17341242.html>

⑥兵器供与でウクライナ紛争は解決しない、交渉せよ＝ブルガリア大統領(2023年10月7日)

欧州にはもはやウクライナ紛争を継続する余裕はなく、ウクライナへのさらなる兵器供与が紛争の解決に繋がることはない。ブルガリアのルメン・ラデフ大統領がポルトガルのポルト市で開催されたEU13カ国の非公式首脳会合で表明した。ブルガリア電信局(BTA)が大統領府の発表を引用して伝えた。

報道によると、大統領は「戦争の継続」を許すことなく、「ウクライナの平和回復を主な目標とするアプローチを模索する必要」を訴えたという。そして国連憲章に基づく公正で持続可能な平和のため、強い政治的意志、外交、積極的な交渉が必要だと指摘した。

報道によると、ラデフ大統領はウクライナへの兵器供与を増やしても紛争解決にはつながらず、「軍事、経済、外交の合理的なバランス」が必要だとも述べた。

EU諸国と欧州連合機関が約束した支援総額は既に1300億ユーロ(約20兆5686億円)を超えている。



<https://sputniknews.jp/20231007/17340771.html>

⑥スロバキア臨時政府がウクライナへの軍事支援終了を発表＝米紙(2023年10月7日)

スロバキア臨時政府はウクライナへのさらなる軍事支援終了を発表した。米紙ポリティコが閣僚らの発言を引用して報じた。

報道には、「退陣するスロバキア政府は今後、ウクライナに軍事兵器を送ることはない」と記されている。この決定はウクライナ支援に反対する政党間の連立結成交渉に関連していると指摘されている。

スロバキア議会選挙では1日、野党・スメル(方向・社会民主主義)が得票率22.94%を獲得して第1党となったことが明らかとなった。同国元首相のロベルト・フィツォ党首は同党が政権を樹立できれば、ウクライナにまつわる和平交渉を始めるためにあらゆる努力をすると述べた。

フィツォ氏は、スロバキアからの武器供給は停止されるが、ウクライナへの人道支援は継続すると付け加えた。

フィツォ氏は、2022年4月に地对空ミサイルシステム「S300」をウクライナに供与したことについて、スロバキア当局を繰り返し批判していた。同氏はまた、MiG-29戦闘機は憲法に著しく違反してウクライナに供与されたと主張した。フィツォ氏は、スメルが議会選挙で勝利した場合、ウクライナ軍への軍事装備品の供与を停止すると約束。同氏によれば、ウクライナへの武器供与は人々の死につながり、紛争を長引かせるだけだという。



<https://sputniknews.jp/20231007/17340985.html>

⑦ウクライナ国民、新たな奇策で徴兵を逃れる(2023年10月7日)

ウクライナの闇サイトでは偽の死亡証明書が販売されている。徴兵逃れを希望する国民の間で利用されている模様。スプートニク通信の特派員が資料を発見して伝えた。

闇サイトの説明によると、売主は買主に対し、「すべての根拠が網羅された」正式な死亡証明書を発行し、必要に応じて偽の葬儀を主催することさえ約束している。さらに、また「親戚が殺された」という証明書を購入することも可能で、これにより国から補償金を請求することもできるとのこと。そのため戦地に行かずに補償金も得られると宣伝している。サービス料は「1万ドルから」と記されている。

ウクライナの反転攻勢は6月4日に始まった。その3か月後、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は「反転攻勢」が停滞しているどころか、「失敗」と述べた。10月初旬のデータによると、ウクライナ側は9万人以上の兵士を失った模様。

ウクライナでは2022年2月から戒厳令と総動員令が発令されている。18歳から60歳までの

男性は出国を禁止されている。兵役を逃れた場合は刑事責任が問われ、最高 5 年の懲役刑に科せられる。



<https://sputniknews.jp/20231007/17340473.html>

⑧ウクライナ議会でのケンカ(2023年 10 月)

2 人のウクライナの議員、アレクセイゴンチャレンコとニコライティシエンコは、国防予算について審議している間に戦いに巻き込まれました。

争いは、ウクライナ議会であるヴェルホフナラダの会議中に発生しました。

目撃者によると、2 人の議員は国防予算への資金配分について議論し始めました。

ゴンチャレンコは欧州連帯党のメンバーであり、ティシエンコは人民のしもべ党のメンバーです。両党は、国防予算を含む多くの問題で対立してきました。

ゴンチャレンコとティシエンコの間議論はすぐに物理的な戦いにエスカレートしました。

二人の議員はお互いを押したり殴ったりし始めました。

他の議員が戦いをやめさせるために介入しましたが、ゴンチャレンコがティシエンコの顔を殴った後のことでした。

<https://twitter.com/i/status/1710357644987281716>



<https://twitter.com/SahilRMahajan/status/1710358938536022201>

⑨ウクライナの腐敗は国家警備隊の冬服にも(2023年10月6日)

ウクライナの国家警備隊は、冬服を購入するための国家契約に署名する際の詐欺の傾向により、自力で冬服を購入する必要に直面するだろう。タス通信の報道によると、このような警告は全ウクライナ軽工業雇用者協会のオレクサンドル・ソコロフスキー会長によってなされたという。

「州兵は冬服を予定通りに受け取れないかもしれないし、もしかしたら全く受け取らないかもしれない。おそらく、去年の多くの兵士と同様に、自費で購入しなければならないだろう」と同氏は自身のフェイスブックページに書いた。

ソコロフスキー氏は、ウクライナ国家警備隊が、独自の縫製生産を持たず農業を営むトレード・プリム社と、1億9,300万グリブナ(530万ドル)相当の冬服縫製契約を結んだと発表した。同協会の会長は、この契約はウクライナの公共調達入札のプロゾロ・システムを迂回して署名されたと付け加えた。同氏によると、この会社の創設者らは詐欺未遂容疑で捜査を受けているという。

ソコロフスキー氏はまた、国家警備隊が独自の生産施設を持たない中間会社シェブロン・キエフと夏用軍服の供給契約を結んだと報告した。協会長によると、同社は4万8千セットを納入するはずだったが、10月初旬までに1千セットしか供給できなかったという。同氏は、国家警備隊は海外で制服を縫製するための生地を、ウクライナの織物業者が提示する価格よりも60%高い価格で購入したと付け加えた。ソコロフスキー氏は、そのような契約の締結には腐敗した動機が関係しており、賄賂の支払いも含まれていると主張している。

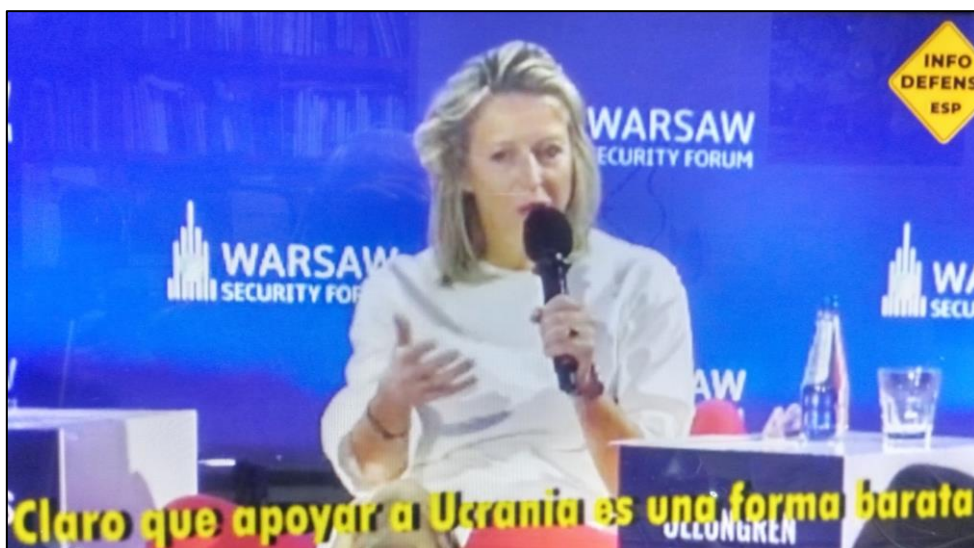
⑩【ウク応援の理由】オランダのオロングレン国防相の話(2023年10月7日)

ウクライナ支援は私たちの利益になる。だって彼らは戦うけど、私たちは戦わないもの。

交渉には、米国やその他のお友だちと参加しなきゃいけないと思う。だって、彼らとは共通の利益があるから。

ウクライナを支援するのは安上がりってことは明らか。それで、ロシアやロシアの現政権が NATO の同盟国にとって脅威にならなくなるんだから、支援し続けるのは大事。

<https://twitter.com/i/status/1710470976163729851>



※安齋注:浅慮っていうんだろうな、こういうの。

⑪ここはイタリア・ミラノだという(2023年10月7日)

<https://twitter.com/i/status/1710361193704305043>



⑫鈴木宗男議員の弁(2023年10月7日)

「武器供与をやめれば戦争は終わる」

「いや希望ではなく、私はロシアが勝つと思っているんです。ウクライナが勝つと思いますか、今の現状で。武器をもらっている、資金も援助ももらっているから長引いているだけで、これをやめただけでも私はおさまると思っている」

当たり前的事を言っただけですな。

「停戦すべき」



https://twitter.com/commux3_holon/status/1710505103692865739?t=WyjDrWgqhsAd5ODNX5Q3g&s=09

※関連情報:ロシアを訪問した日本維新の会の鈴木宗男参院議員は6日、関西テレビの番組に生出演し、自民党の森喜朗元首相から「何も間違ったことを言っていない、日ロ関係は重要なんだ。今、日ロ関係ができるのは、維新の中で誰がいるんだ」と言われ、「しっかり頑張れ」と激励を受けたことを明かした。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1710535101246013446?t=LBWsDuwwAGHSs4fJnvJVw&s=09

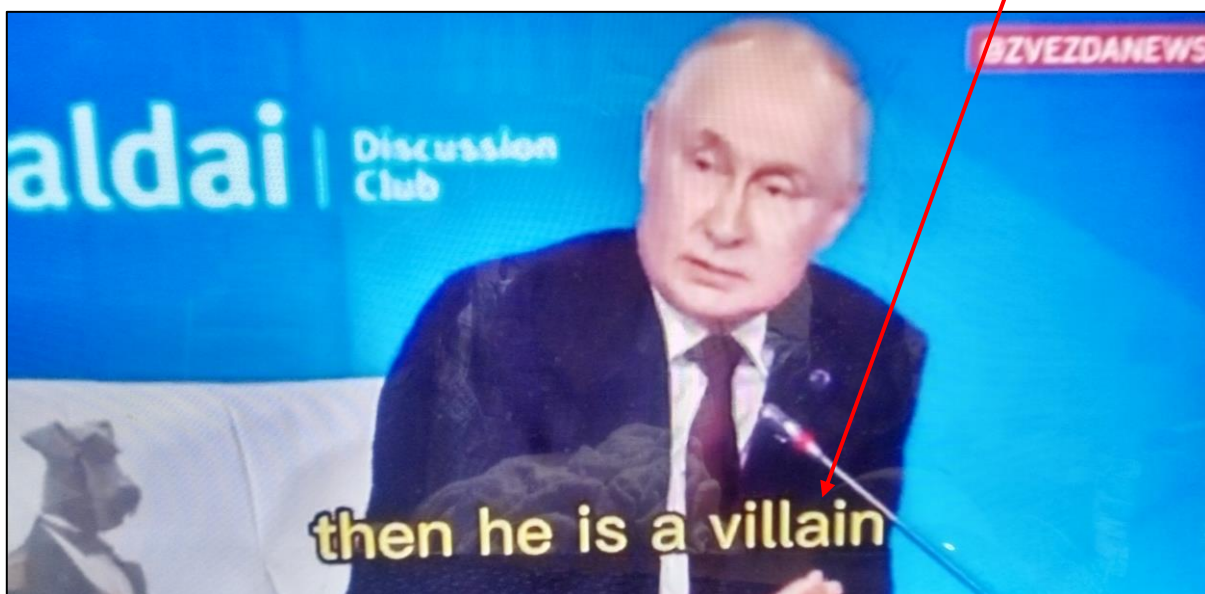
⑬プーチンのトルドー評(2023年10月7日)

「プーチン大統領は、トルドーがヒトラーとその手下たちが第二次世界大戦中にロシアと戦ったことを知らなかったため、彼を愚か者と呼んだ

「それは彼が学校で勉強せず、基本的な知識がないことを意味します」

「もし彼がそれを知っていて、彼をカナダとウクライナの英雄と呼ぶなら、彼は悪党だ」

<https://twitter.com/i/status/1710156427400987060>



villain=悪党、悪人、悪者、犯罪者

https://twitter.com/yakiimo_2022/status/1710280149680464244?t=1x5Hl4pdXLIUltL4ONpSyw&s=09

⑭ウクライナのルーマニア人の想い(2023年10月7日)

我々はウクライナのルーマニア人だ。ウクライナとルーマニアの政府に申し上げる。

我々は我々は逃げも隠れもせず、ウクライナ軍に動員された。ロシアの侵攻と占領に対してウクライナ人とともに戦ってきた。義務を果たすことを誰も拒否しない。

だが、我々の家族から動員が再開されたとの知らせ受け取った。若い者から年寄りまで残っている者全てが捕まえられていると。障がい者もみんな戦線に送られている。オデッサ、ドミトロフカ、アレクサンドロフカ、イスマイル、キリヤ、ヘルサ、チェルノフツィーでそういうケースが多発している。

我々がここで戦って死ぬだけでは十分じゃないのか？ルーマニア人はそんなにいない。この戦争で我々の若い者たち、我々の未来が奪われている。

それ故に、我々はウクライナ政府に訴える。

総動員を止めろ。

ルーマニア政府に訴える。

ウクライナにおける同胞を守るため何らかの措置を取れ。

我々はウクライナのために戦う準備はできているが、この戦争で未来を失うのはご免だ。

<https://twitter.com/i/status/1710376732791083057>



⑮プーチン:日本との対話の窓は開いている(2023年10月7日)

※投稿者弁:昨日のフォーラムで、ロシアのプーチン大統領は、日本の笹川財団関係者から、現在の日露関係の修復について質問したところ素晴らしいコメントが返されました。親日家のプーチンだからその言葉ですね。ありがたい。

●笹川平和財団・畔蒜主任研究員

「両国は隣国であり、対話の窓は常に開けておく必要がある。日本が専門家レベルでの対話再開に向けた提案をした場合、これを支持しますか？」

◆プーチン大統領

「大工技能4級を持っていますので、窓の作り方は知っています笑。国益に合致するなら窓を大きくしますよ」

笹川平和財団からの質問に冗談で切り返すプーチン大統領。即興の受け答えも相変わらずウィットに富んでいる。メディアにはプーチン大統領のこうした人間的なところをもっと伝えてほしい。

<https://twitter.com/i/status/1710416970154135735>



笹川平和財団・畔蒜主任研究員

専門家レベルでの対話再開



大工技能4級を持っていますので、窓を作ることは可能です

https://twitter.com/jupiter_russia/status/1710416970154135735

〈関連情報:時事通信〉

ロシアのプーチン大統領は5日、ウクライナ侵攻下の日ロ関係について、日本の働き掛けがあれば「われわれは(対話に応じる)用意がある」と述べた。プーチン氏は、関係正常化に向けて、日本が対ロ制裁をやめるなどの具体的行動を取ることが必要だという認識を示唆した。

内外のロシア専門家を集めて南部の黒海沿岸の保養地ソチで開かれた「バルダイ会議」で語った。参加した笹川平和財団の畔蒜泰助主任研究員の質問に答えた。

プーチン氏はこれまでも日米欧の制裁を批判している。昨年2月の侵攻開始以降、プーチン氏が日本側の質問を受ける形で、公の場で2国間関係に直接言及したのは初めてとみられる。

畔蒜氏とのやりとりで、プーチン氏は「われわれは日本に制裁を科していないし、窓を閉めたわけでもない。やったのは日本だ」と強調。一方で「(日本側が)『対話に意味がある時が訪れた。イニシアチブを取ることが可能だ』と考えるのならば、対話は常に良いことだ」と主張した。

⑩ウクライナに「終わりの始まり」が到来＝英メディア(2023年10月8日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は同盟国から十分な資金を確保できず、遅かれ早かれロシアとの妥協を余儀なくされる。英メディア、スカイニュースが報じた。

記者は記事の中で、「これがウクライナにとって終わりの始まりではないかという疑問が生じるような形で事態は展開している」と記している。

報道によると、ウクライナに軍事的・財政的支援を提供する必要性があるものの、すでに高い水準のインフレに直面する西側諸国にとっては大変な負担となっているという。記者は「西側における有権者の焦点は今や容赦なく国内問題へと移りつつある」と記している。

ウクライナが戦闘に可能な限り備えたと考えられるこの夏に進展がなかった場合、西側による追加軍事支援は単なる泥沼の紛争に投じられるだけで、進展は一切ないと見られている。

先に米紙ワシントン・タイムズは紛争が長引くにつれ、西側ではウクライナ支援疲れが顕著になっていると報じた。ウクライナが戦果を上げていないことも影響していると指摘した。

米連邦議会では9月30日、45日間にわたって政府への資金提供を継続する共和党の予算案が承認された。ただし、同法案にウクライナ支援は含まれない。米政府は共和党が協力を拒否していると非難している一方、共和党は国境で生じている移民危機の解決を含む政府の行動を支持していない。ウクライナ支援が予算に盛り込まれたことも障壁となった。一部議員はウクライナ支援が含まれる限り、つなぎ予算の採択には反対票を投じると述べていた。特に共和党トランプ派として知られるマジョリー・テイラー・グリーン下院議員は、次年度本予算でもつなぎ予算であってもウクライナ支援が含ま

れている場合は反対票を投じるとしている。



<https://sputniknews.jp/20231008/17348748.html>